

明治大学大学院 特別講義

(第2回明大昆虫セミナー 共催)

## 生態系の機能を活用した総合的害虫管理 (EB-IPM) の展開

大野 和朗 氏

(宮崎大学農学部 食料生産科学科)

日時：2008年1月15日 (火) 17:00～19:00

会場：明治大学生田キャンパス 農学部2号館 2-300教室

『総合的害虫管理 (Integrated Pest Management: IPM)』とは、農薬だけに頼って全滅を目指していた従来型の害虫防除を反省し、天敵に代表される有用動物を基幹として農薬やフェロモン、物理的防除資材などの様々な技術を組み合わせて使いながら、害虫の密度を被害が出ない程度に低く維持していく方法です。IPM が登場して一定の農薬使用量の低減は達成されたものの、実際の生産現場では現在でも農薬を基本とした IPM が行われており、我が国の農薬使用量は世界トップレベルを維持しています。環境問題、食糧問題、生産者の高齢化など多くの問題が山積する中で、今後は天敵生物を含む生態的な働きを基幹とした本来の IPM へと軌道を修正していく必要があります。

大野和朗氏は JICA 昆虫学専門家 (バングラディッシュ) や福岡県農業総合試験場を経て、1999年に宮崎大学農学部に赴任されました。一貫して生産現場で天敵を利用する技術の開発や IPM の普及に尽力されており、特に近年は地域天敵資源 (土着天敵) を活用した生物的防除技術へと研究を展開されています。大学に移られてからは地域との連携をさらに強め、学生さんを生産者の下へと向かわせて「生の研究」を実施するなど、さらなる大活躍を続けていらっしゃいます。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室

糸山 享 (内線：7810)

## 第2回 明大昆虫セミナー

### (1) 全農あきたの取り組みについて

小関 元 氏 (全農あきた 肥料農薬部)

### (2) 生態系の機能を活用した総合的害虫管理 (E B - I P M) の展開

#### (大学院特別講義)

大野 和朗 氏 (宮崎大学農学部 食料生産科学科)

日時：2008年1月15日 (火) 16:20~19:30

会場：明治大学生田キャンパス 農学部2号館 2-300教室

(1) 広く知られている通り、秋田県は日本屈指の農業県です。特にブランド米『あきたこまち』は秋田県民の誇りであり、心の拠りどころでもあります。食の安全・安心や環境保護が直近の問題としてクローズアップされる昨今、『あきたこまち』の生産にも減農薬や特別栽培の実践が強く求められています。こうした時代の中で、全農あきたは国や県の機関とも連携しながら生産者支援と消費者保護の両面から秋田県の農業を支える活動に取り組んでいます。

小関元氏は全農あきた肥料農薬部で活躍する若手職員で、秋田県農業試験場に勤務していた糸山とは一緒に仕事をした良い仲間です。学生諸君とは年齢も近いので、先輩社会人からのアドバイスを受ける良い機会にもして頂きたいと考えています。

(2) 別途の大学院特別講義の案内にもある通り、大野先生は日本における IPM 研究のリーダーです。今回は、翌日に東京での講演を控えた大変お忙しいところを、無理を言って生田に立ち寄って頂きました。研究分野は少し違えども糸山の目標である大野先生の講演を、学生諸君にも体感して頂きたいと思っています。

問い合わせ：農学部 応用昆虫学研究室

糸山 享 (内線：7810)